

◎第1回理事会 (37.6.27) 出席者：藤井会長，山本，岡本両副会長，ほか理事10名。議事：1) 会務担当について次のように決定した。

総務部 大石(新)，三野(新)，渡辺(新)  
 経理部 岡本(東)(留)，田中(新)  
 編集部 奥村(留)，長浜(留)  
 調査部 金子(留)，竹ヶ原(新)  
 研究連絡部 松本(留)，岡部(新)

2) 定款改正立案担当理事の交代について・岡部，三野，渡辺の各理事の新任を決定。3) 50周年記念事業について・a. 経過説明を末森専務理事より行ない了承。b. 委員長，準備幹事の交代と追加・在京の準備幹事の任期は事業終了までとし，佐藤前理事は神戸に転任のため退任とし，岡部理事を新任することで承認。なお，委員長を会長とすることは会長の任期が1年で毎年交代するので，事業終了まで専任の委員長としたらとの意見があった。c. 新任理事全部委員に追加の件了承。d. 支部長委員の交代の件承認。4) 文部大臣に建議書提出について・中級技術者養成についても高校土木教育研究会と連絡の上追加し建議すること，文案は会長に一任することで承認。5) 支部長および委員会委員長，委員委嘱についてを次のとおり承認。

① 支部長の交代

|     | 新 任     | 前 任   |
|-----|---------|-------|
| 北海道 | 猪瀬 寧雄   | 三島 勇  |
| 東北  | 小西 則良   | 樋浦 大三 |
| 中部  | 中谷 茂一   | 吉川 吉三 |
| 関西  | 西 矢野 勝正 | 高津 俊久 |
| 西部  | 松尾 春雄   | 田中 庸介 |

中国・四国は7月改選の予定

② 会誌編集委員会

|     |         |                    |
|-----|---------|--------------------|
| 委員長 | 八十島 義之助 | (東京大学工学部土木工学科)     |
| 委員  | 佐藤 尚徳   | (経済企画庁水資源局水質調査課)   |
| 〃   | 千秋 信一   | (電力中央研究所技術研究所)     |
| 〃   | 松本 成男   | (建設省都市局街路課)        |
| 〃   | 藤井 喬    | (西松建設KK土木設計部)      |
| 〃   | 渡辺 隆    | (東京大学工学部土木工学科)     |
| 〃   | 石井 文雄   | (建設省河川局治水課)        |
| 〃   | 森本 茂男   | (運輸省港湾局建設課)        |
| 〃   | 妹尾 隆之   | (運輸省鉄道監督局民営鉄道部土木課) |
| 〃   | 後藤 績    | (日本国土開発KK研究部技術課)   |
| 〃   | 大山 忠    | (国鉄施設局土木課)         |
| 〃   | 斎藤 俊彦   | (国鉄建設局建設線課)        |
| 〃   | 森 麟     | (早稲田大学理工学部土木工学科)   |
| 〃   | 奈良部 俊雄  | (鹿島建設KK土木部)        |
| 〃   | 中沢 武仁   | (建設省河川局計画課)        |
| 〃   | 新谷 洋二   | (建設省都市局都市計画課)      |

地方委員

中部地区 酒井 清太郎 (名古屋工業大学土木工学科)

③ 論文集編集委員会委員交代

長谷川五郎氏転勤のため 八木田功氏(建設省都市局)  
 内田恵之助氏都合により 山根 孟氏(建設省道路局)

6) その他・a. 日本学術会議会員候補者推薦について，未回答の支部についても調べて推薦することで承認。b. 会員増加対策について，前年度に引続きさらに御努力願うことでした承。

c. 耐震工学委員会関係

c-1 地震工学国内シンポジウム・岡本副会長が説明し了承，c-2 オーストラリア・シヨウ教授の講演会について，要旨を会誌に載せることで承認，d. デイリー，エスカンド両教授の来日について・末森専務理事，奥村理事の説明で，イッペン教授の前

例にならない有志との懇談会および論文要旨を会誌に掲載することで承認。e. 次回理事会の件。

◎各種委員会

(1) 第1回文献調査委員会 (37.6.5) 出席者：久野・千秋新旧委員長，ほか委員および幹事22名。議事：1) 47巻7号，8号登載抄録および目録について。2) 担当雑誌について。3) 新委員会の部会割りについて。4) 新委員の紹介。5) 事務引き継ぎについて。6) その他。

(2) 第1回会誌編集小委員会 (37.6.5) 出席者：堺副委員長，ほか委員2名。議事：1) 47巻6号口絵写真，ニュースの決定。2) 川口輝夫氏の追悼文の掲載について。3) 6号登載の磯村英一氏の論説に対する土木技術者としての意見について。4) 7月号の内容について最終的打合せを行なった。5) 8月号の編集について。6) その他。

(3) 37年度第1回出版企画委員会幹事会 (37.6.8) 出席者：佐藤委員長，八十島幹事長，ほか委員および幹事6名。議事：1) 前回委員会報告。2) 37年度出版計画の検討。3) 1) に関連してコンクリート・ライブラリー，トンネル工学シリーズの出版計画を具体的に検討。4) 水理講演会講演概要の出版については委員会の原案を一部修正して了承。5) 電発より申し入れのあった工事誌出版依頼の件は，次回までに見積り，発行調査などを事務局で行なって検討するが主趣は了承。6) 八十島幹事長が会誌編集委員長となられるので，奥村委員を新幹事長として交代したいという件は原則的に了承された。7) その他。

(4) 本州四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会幹事会 (37.6.15) 出席者：建設省側幹事7名，国鉄側幹事6名。議事：1) 幹事に伊東茂富氏を追加。2) 次回を7月5日に開催する。3) 専門部会の運営について。

(5) 地震工学国内シンポジウム運営委員会 (37.6.18) 出席者：岡本委員長，ほか関係者6名。議事：1) 広告の件。2) 提出論文について。3) 講演時間について。4) パネル討論について。5) 執筆要領について。6) その他。

(6) 第57回耐震工学委員会 (37.6.19) 出席者：那須委員長，ほか委員9名。議事：1) IAEE について。2) 地震工学国内シンポジウムについて。3) 北美濃地震報告書について。4) 国鉄委託研究について。5) その他。

(7) 本州四国連絡橋技術調査委員会幹事会 (37.6.19) 出席者：建設省側幹事4名，国鉄側幹事4名。議事：1) 現地視察について。2) 上部構造に関する専門部会の設置について。3) 基礎に関する専門部会について。4) その他。

(8) ACI Building Code に関する打合せ (37.6.20) 出席者：委員9名。議事：ACI より Discussion の検討を行なった。

(9) 第1回会誌編集委員会 (37.6.22) 出席者：八十島，堺正副委員長，末森専務，ほか委員15名。議事：1) 投稿原稿の審査報告。2) 新規受付原稿について。3) 小委員会報告。4) 47巻8号登載原稿について。5) 新委員会への申し送り事項について。6) 編集委員の月別担当について。7) 編集委員の欄別担当について。8) 新規講座について。9) 新年度の編集方針。10) 次回委員会の件。11) その他。

(10) 地震工学国内シンポジウム運営委員会 (37.6.23) 出席者：岡本委員長，ほか委員10名，関係者3名。議事：1) 委員の代理および交代について・大久保委員→成田(土研)氏，川口委員→大地(鉄研)氏。2) プログラムの編成について。3) 執筆要領について。4) パネル説明者，司会者，列席者について。

5) 援助金の収集について。6) 外国に対するPRについて。7) その他。

(11) 第2回原子力土木技術委員会(37.6.25) 出席者: 左合委員長, ほか委員4名。議事: 1) 前回議事録の承認。2) 委員の追加について・上山惟康氏(東電)・清山信二氏(鹿島)・鶴尾昭氏(原研), ほか伊東茂富, 渡部与四郎の両氏に交渉する。3) 左合, 高橋, 南部, 長山の各委員提出の資料の検討。4) 次回委員会について。

(12) 八郎瀧干拓特別委員会(37.6.26) 出席者: 本間委員長, ほか委員5名, 関係者8名。議事: 1) 現水道案, ショートカット水道案の比較検討結果に関する報告書の取りまとめについて。2) 委員会実施計画について。3) 水理実験について。4) その他。

#### ◎その他

##### (1) 異形鉄筋に関するシンポジウム

日時: 37年5月25日, 13.20~17.00

場所: 土木学会会議室

参加者: 約130名 講演: 13題

##### (2) 新進コンクリート技術者との交歓会

日時: 37年5月25日, 16.00~20.30

場所: 土木学会会議室 参加者: 44名

議事: 1) コンクリート委員会委員長挨拶。2) 参加者自己紹介。3) 若いコンクリート技術者の研究概況, 抱負, その他。

##### (3) コンクリート委員会有志懇親会

日時: 37年5月26日, 12.00~13.00

場所: 丸の内会館グリル 参加者: 58名

土木賞受賞者(コンクリート関係), 吉田賞受賞者, 吉田研究奨励賞受賞者をかこんで, コンクリート委員会有志の方々の令夫人をまじえた懇親会を行なった。

##### (4) キャンプ氏講演会

日時: 37年6月12日, 15.00~18.00

場所: 土木学会会議室 参加者: 約20名(水理関係者)

F.A. Camp氏の講演を聞き, 種々討議を行なった。

##### (5) 第9回関東地区学生諸君のための映画会

日時: 37年6月16日, 14.30~16.20

場所: 土木学会会議室

参加人員: 56名

上映映画: (1)下水の科学 (2)生きている川 (3)ダム (4)製鉄

##### (6) 第12回応用力学連合講演会第2回運営委員会

日時: 37年6月16日, 14.00~16.30,

出席者: 25名

議事: 1) 講演申込数117編を部門別に仕訳してプログラムの原稿作製。2) 司会者の選定。3) 特別講演者および同司会者の選定。4) 次回運営委員会(7.2)の決定

##### (7) 第1回トンネル工学シンポジウム

日時: 37年6月21日, 9.30~17.00

場所: 私学会館

参加者: 515名 講演: 6題

映画: 新しいトンネル支保工材(八幡製鉄提供)

懇親会: 同日 18.00~20.00 参加者: 20名

見学会: 22日 国鉄新幹線丹那トンネル 見学者: 116名

##### (8) 第10回関東地区学生諸君のための映画会

日時: 37年7月14日, 14.30~16.30

場所: 土木学会会議室

参加者: 17名

上映映画: (1)製鉄 (2)マンモス潜函 (3)発破作業の安全

## 支 部 だ よ り

#### ◎東北支部

(1) 委員会(37.6.1, 仙台市クローバー) 出席者: 佐々木幹事長, ほか7名。議事: 道路講習会開催について。

(2) 役員会(37.6.13, 仙台市クローバー) 出席者: 小西支部長, 佐々木幹事長, ほか役員15名。議事: 1) 道路講習会開催について。2) 見学会開催について。3) 37年6,7,8月事業実施について。4) その他。

##### (3) 講演会(37.7.2)

このたび士質工学会東北支部と共催して下記講演会を開催聴講者100余名に達し盛会裡に終了した。

日時: 37年7月2日, 14.00~17.00

場所: 日立ファミリーセンター(仙台駅前)

演題: ソ連の印象(スライド上映)

講師: 東北大学 原田干三

映画: ソ連の道路の建設機械化について 聴講者: 100名

##### (4) 見学会(37.6.19~20)

行程: 県発電所~湯田ダム工事~国鉄鶯巣橋梁

参加者: 56名

#### ◎関西支部

(1) 通俗講演会(交通と都市計画に関する講演と映画の会 37.6.2, 大阪朝日会館)

講演: ①名神高速道路の建設について

日本道路公団名神高速道路第一建設局工事部長 池田雄二

②東海道新幹線について

国鉄大阪幹線工務局次長 宮内義人

③大阪の都市計画を中心とする最近の問題

大阪市計画局長 河村重俊

映画: 3題 参加者: 835名, 参加費: 無料

##### (2) 第1回見学会(37.6.15)

国鉄大阪工務局 鷹取~西明石間線増設工事を見学

参加者: 76名

参加費: 100円

##### (3) 第1回幹事会(37.6.6 土木学会関西支部事務局)

出席者: 矢野支部長, 米谷幹事長, ほか幹事9名。

##### (4) 第1回商議員会(37.6.20, 大阪建設会館) 出席者: 矢野支部長, 米谷幹事長, ほか商議員20名, 常議員3名, 幹事13名。

(5) 第2回幹事会(37.6.20, 大阪建設会館) 出席者: 矢野支部長, 米谷幹事長, ほか幹事13名。

(6) 昭和37年度学生見学会常設委員会(37.6.20, 大阪建設会館) 出席者: 委員6名, 商議員2名。

##### (7) 幹事増員(37.6.22 付)

佐伯建設工業KK取締役 三上 恒氏に37年度幹事を委嘱した。

##### (8) 第2回見学会(37.7.19)

天ヶ瀬ダム工事, 天ヶ瀬水力発電所建設所, 南郷洗堰, 名神高速道路大津サービスエリア・大津インターチェンジを見学

参加者: 123名

参加費: 300円

##### (9) 第3回幹事会(37.7.17, 土木学会関西支部事務局)

出席者：米谷幹事長，ほか幹事 12 名。

水力発電所

◎西部支部

見学会 (37.6.8)

行程：一ツ瀬ダム工事～一ツ瀬水力発電所～杉安ダム～杉安

工事説明者 九州電力KK一ツ瀬水力発電建設所長 田代信雄氏

参加者：186 名，好天気に恵まれ風光も古代がしのばれ盛会であった。

編集後記

暮から春にかけて大都市での交通マヒはいちじるしく，毎日の新聞をあけて見るといくつかの交通問題の記事が紙面をにぎわしていました。そして〇〇氏談とか座談会とかは道路や鉄道の供給不足を論じていれどやラレント的に見てもらえるといった風潮もあったようです。当事者として，わが会員も多数が紙上や TV 上にかり出され，土木工学も随分脚光を浴びて来たものと思われました。少しひでりが続くとも度は水不足です。マスコミの追かけまわす対象が水道関係者に移り，ラジオも TV も新聞も東京の水道行政はなっていない，と声をそろえることになり，またここでも数多くの土木技術者がタレントとして登場していたようです。つぎが風水害？では困まるのですが，どうやら土木工学がいかにか公共性があるかを如実に知らされたわけで，嬉しいやら困まるやら，といった心境の会員が多いことと思います。

ところでその渦中にある土木技術者が会員だけで 1 万 5 000 人ですが，はたしてその社会に対する寄与に相応しい等級と待遇を受けているでしょうか。また基礎研究が十分に振興し，それが実地に十分応用されるに至っているでしょうか。それらも合せてわが学会がじっくり考え，対策をねらなくてはならぬ問題が，山積しているといつてよいでしょう。

そしてこの学会誌はそのような問題に対しても会員間の一つの橋渡し役になっていくてはならぬと思います。その役目を持っていながらも郵送されるやただちに棚の上にほうり上げられ，ついに日の目を見ぬうちに灰塵に帰したとするなら，編集担当者としてこれほどザンキにたえぬことはありません。

今回編集委員長を委嘱されるに当り，誠にその任の重いことを痛感し，関係者一同の御理解と御協力をえて少しでもお役に立ちたいと念願する次第です。【八十島・記】

会員入退会について (昭和 37 年 6 月 1 日～6 月 30 日)

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 1. 入会 | 230 名 (正 103 学 121 特 1・C 1 特 1・D 5) |
| 2. 復活 | 56 名 (正)                            |
| 3. 退会 | 52 名 (正 35 学 15 特 1・C 1 特 1・D 1)    |
| 4. 死亡 | 4 名 (正)                             |
| 5. 転格 | 1 名 学→正                             |

特別員の入退会 (昭和 37 年 6 月 1 日～6 月 30 日)

|    |            |       |                    |      |
|----|------------|-------|--------------------|------|
| 入会 | 昭和 37.6.7  | 特 1・C | 極東鋼弦コンクリート振興 KK    | 東京都  |
| "  | " 6.8      | 特 1・D | 宇都宮市役所             | 宇都宮市 |
| "  | " 6.7      | "     | 川崎ボーリング K.K.       | 東京都  |
| "  | " 6.11     | "     | 日本総合コンサルタンツ KK     | "    |
| "  | " 6.4      | "     | 日本揮発油 KK           | 横浜市  |
| "  | " 6.1      | "     | 社団法人 栃木県建設業協会宇都宮支部 | 宇都宮市 |
| 退会 | 昭和 37.6.21 | 特 1・C | 小野田セメント KK 大船渡工場   | 岩手県  |
| "  | " 6.7      | 特 1・D | 雄別炭礦 KK            | 東京都  |

会員現在数 (昭和 37 年 6 月 30 日現在)

|      |    |     |      |    |    |    |    |       |    |       |    |       |     |       |     |     |    |   |       |     |       |
|------|----|-----|------|----|----|----|----|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-----|----|---|-------|-----|-------|
| 名誉正員 | 48 | 学生員 | 1218 | 賛助 | 30 | 特級 | 15 | 特 1・A | 15 | 特 1・B | 28 | 特 1・C | 153 | 特 1・D | 230 | 特 2 | 20 | 計 | 15038 | (増) | (230) |
|------|----|-----|------|----|----|----|----|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-----|----|---|-------|-----|-------|

|    |    |        |              |            |    |      |
|----|----|--------|--------------|------------|----|------|
| 正員 | 工博 | 中村光四郎君 | KK奥村組顧問      | 昭和 37.6.4  | 死去 | 71 才 |
| "  |    | 大塚 澁君  | 関西電力KK滋賀支店   | " 36.12.21 | "  | 51 才 |
| "  |    | 五島 武夫君 | 岐阜大学工学部土木工学科 | " 37.3.6   | "  | 58 才 |
| "  |    | 松原 駿士君 | 東京大学大学院研究生   | " 37.6.9   | "  | 26 才 |

昭和 37 年 8 月 10 日印刷

昭和 37 年 8 月 15 日発行

土木学会誌 第 47 卷 第 8 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂溜池 5 番地

発行者 末森猛雄

発行所 社団法人土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200 円 (送料 15 円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5138・5139 番

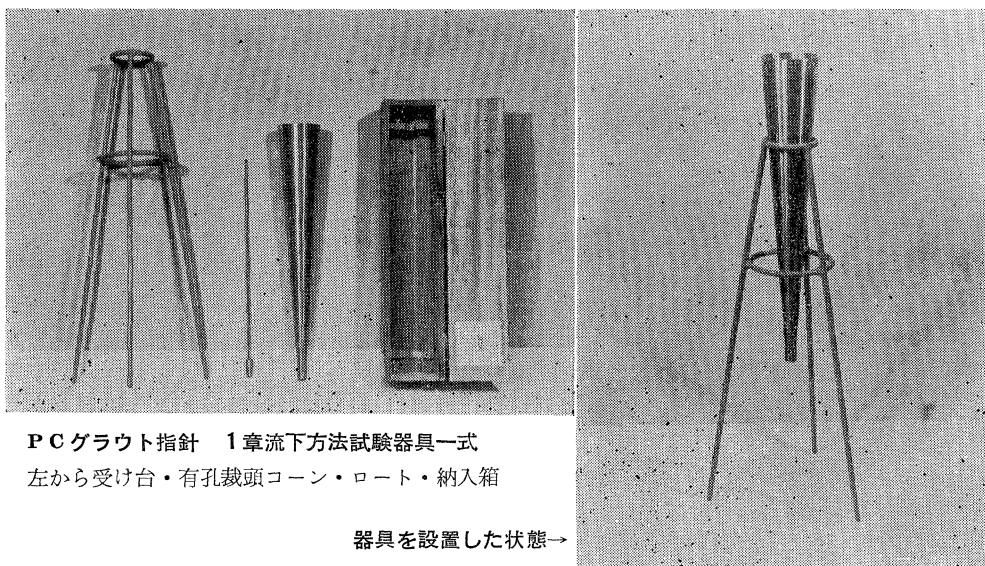
# 土木学会制定「グラウト指針」に規定された グラウト試験器具 (1章 流下方法試験器具)

## 土木関係試験器具として要求される3要素

簡便! 丈夫! 安価! を合せ持つ理想的グラウト試験器具 流下方法試験器具

グラウト試験器具としてはこれらの基本的条件のほかに、グラウト施工上支障となる要素を鋭敏にキャッチし、測定結果に表わさなければなりません。

本試験器具はほかのどの方法より鋭敏にグラウトの諸因子に反応を示す理想的グラウト流動性試験器具です。



PCグラウト指針 1章流下方法試験器具一式  
左から受け台・有孔裁頭コーン・ロート・納入箱

器具を設置した状態→

### 試験具部品名：

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| (1) 方金製ロート (学会検定済核印付)      | 1 個 |
| (2) 方金製有孔裁頭コーン             | 1 個 |
| (3) 鋼製ロート受け台 (塗装)          | 1 個 |
| (4) 木製納入箱 (学会検定済証, 製品番号添付) | 1 個 |

価 格：7500 円 (送料共)

試験器具注問受付け：社団法人 土木学会事業課 新宿区四谷1丁目 電 (351) 5138

製 造 元：アメリカ石油協会認定工場 A. P. I 登録 7076, 5832, 8213

株式会社 新井鉄工所 本社 東京都墨田区江東橋2の12 電 (631) 1286

正しい測定結果は土木学会検定の試験器具から!!